

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicityamate.org/>

第589号 2018年11月11日

力障連全国大会

1年以上前からご案内をしてきた日本カトリック障害者連絡協議会横浜全国大会が10月20、21日に聖光学院中学校・高等学校で開催され、北は北海道から南は九州、沖縄まで全国から約800の方が参加されました。車椅子の方には根岸駅～学校間の送迎を用意したり、視覚障害の方には事前に点訳、音訳された大会資料を送ることができました。

大会プログラムは第1日目にカ障連総会、基調講演、分科会、懇親会、2日目に全体会、カ障連アンケート発表、ミサと盛りだくさんの内容でした。またピロティでは障害者団体や教会の物品販売もあり、Tシャツ・バッグ等大会のオリジナルグッズを購入することもでき、賑わいました。

基調講演には^{あさかゆうほ}安積遊歩さんをお迎えしました。大会のテーマは「互いの弱さを認め合い、共に生きよう」です。2016年に相模原市津久井やまゆり園で起きた戦後最大規模の殺人事件の犯人は「重度心身障害者は世の中の役に立たない不幸な人」と決めつけて犯行におよびました。生産性や効率性が最優先され、強者の論理が幅を利かせている社会の中で安積さんの講演テーマ「優生思想に向かい続けて ～身体の個性を喜びとして生きる～」はぴったりでした。

安積さんは骨がもろく折れやすい骨形成不全症という障害を持ちながら日本、そして世界を飛び回り、誰もが人権を尊重され、みんなが尊厳をもって生きていける社会をつくるための希望にあふれるメッセー

ジを届けてくださっています。

「誰かが誰かより優れていたり、誰かが言うことをずっと黙って聞き続けなければいけないのはおかしい。おかしいと思うことに声を上げていくことが大切」と力説されました。福島生まれの安積さんがJR福島駅にエレベーターが無いのはおかしいと訴え続けたらエレベーターが設置されたことを例に「あきらめない」大切さを語られました。やまゆり園の事件にも触れ、「どんな人もかけがえのない存在である。多様性を生きようとする姿勢を認め合い、自分らしく生きられる社会でありたい」と述べられました。後半にはアフリカで行われている虐待や迫害、福島原発事故等大変なことが起こっていることを伝え続けていきたいと熱きメッセージをいただきました。

基調講演後、九つの分科会にわかれ、分かち合いが行われました。九つのテーマは「他の障害と出会ってみよう」「苦労や生き辛さを語り合おう」「共に歌い、互いの足を洗おう」「排除のない多様性社会を目指して」「隣人になることについて考えよう」「いやしの場面を分かち合おう」「生と死を考えよう」「教会は障害とどう歩むか」「フリートーク・フリータイム」です。

それぞれが実りある分かち合いの場を持ってました。

懇親会にも沢山の方が参加され、楽しい会話が弾みました。ダルクによる琉球太鼓には踊りに加わる方々も多く、前田枢機卿様も太鼓をたたき会場が笑顔に溢れました。

2日目は梅村司教様による手話ミサで締めくくりとなりました。入祭の歌「ガリラヤの風かおる丘で」が流れると聴覚障害の方々が手話で歌い始めました。第1朗読は手話朗読、第2朗読は点字朗読、共同祈願は全国から四つの祈りが唱えられました。派遣の歌「アーメンハレルヤ」は手話が会場全体に広がり、歌詞「せかいのみんなきょうだいさ … 主にむかうところでひとつになって分かちから … あいはひとつみんなのもの」が実現している瞬間を感じることができました。

閉会式では江戸カ障連会長より次の開催地が「長崎」と発表され、今大会の久保実行委員長と長崎からいらっしゃった神父様はじめ皆様が握手を交わし、引継ぎをされ、大会が神様の恵みのもとお開きとなりました。

お互いが障害を認め合い、共に生きていくことこそ愛を証すること、キリストのうちに一つになることを意味しているとミサの説教の中で話された前田枢機卿様がお詠みになった一句「十月や 共に生きるわ カ障連」。社会の願いである「共に生きるわ」これこそが世界の「わ」、平和の「わ」となり、みんながつながり長崎大会に引き継がれていくことを祈りたいと思います。